

実心実学読書会

石上阿希『江戸のことば絵事典 『訓蒙図彙』の世界』

2021.4.24

コメント

- 一、『訓蒙図彙』から考える中村惕斎の思想
- 二、『訓蒙図彙』と『三才図会』の比較から考える近世日本の知識世界
- 三、歴史研究における「図像」の意義

一、『訓蒙図彙』から考える中村惕斎の思想

1.中村惕斎の教育思想

2.中村惕斎の礼学思想

1.中村惕斎の教育思想

家の存続を目的として家主など一部の人間に対して語られたものとは異なり、社会全体に目を向けて説かれたもの。

上層階級に限定的に共有されていた情報、知識、教養が「出版/オープンデータ」によって幅広い読者へと公開された。

元禄三年（一六九〇）将軍徳川綱吉の支援で江戸で学問所
「湯島聖堂」

惕斎：「宇宙間の一盛会」と賛美

綱吉が「至聖の殿」「日講の堂」を「臣民と之を公とす」。

「方ニ今学者ト云人多ケレドモ、**朱子ノ的脈ヲ知ルモノスクナシ**。蓋コレアラン、然レドモ我イマタコレヲ見ズ。我年老ヒ死近。恐ハ此学脈ノ地ニ墜テ、操拳ルモノトタヘンコトヲ、千万千万コレヲ憂コト深シ。猶二三子ノカニテコレヲ継続センコトヲ至禱ナル所ナリ。然レドモ人ハ浮キモノナレハ、人ニアルノミニテハ、タシカナラス。**何トソ一**
生ノ中、学校一基ヲ取立テ、来学ンコトヲ願モノアラハ、容レテ教ヘ、ソノ中ヨリ又人出テハ庶幾ハ正学タヘジ。ソノ学頭ニナルモノ誰カヨケン。二三子亦コレトナルヘシ。**願ハ微禄ヲ求テ侯国ニ仕ンヨリ、反テ学頭トナリテ正学ヲ継キ来裔ヲ導ンコトヲ。**」

『仲子語録』 卷二

『訓蒙図彙』

読者として「大人」も想定されていた

楽しい 好奇心

学問成就の根は書物を好む心を育てること

2.中村惕斎の礼学思想

「訓蒙図彙」の編纂にあたり、事物の選出には、偏りが見られる。

例えば「衣服編」は ほとんど公家、武家、僧侶などが儀礼の時に身につける格の高いもの。



近世期絵入百科事典データベース (試作版)

Database of Early Modern Illustrated Encyclopedias

検索



著書の112頁より



中村惕斎が設計した孔子像
(特別史跡旧閑谷学校蔵)



『聖像章服考議』 (元禄七年<1694>)

「朱子嘗て謂わく、**宣聖は像を設ふに当たらず。**
春秋の祭時は只だ**木主に依りて祭り**て可なり、と。
後儒は亦た多く像を設ふの非を議す。」

『聖像章服考議』 「序」



萩藩明倫館の木主

「然かりと雖も其の勢は尽く之を毀すこと能はず。今清朝の祀図を
観るには、又た像主を設ふに復す。蓋し世風人情に已むべからざる
所以の者在ること有り。況や吾邦の人、文は未だ華夏の盛んなるに
及ばずして、今異教の図像寰宇に蕃衍するの時をや。故に釈礼の主
は袞冕の容を設くるに非ざれば、則ち以て世俗の尊仰に副ふに足ら
ざるなり。」

『聖像章服考議』 「序」

「訓蒙図彙」における画像の選出・描写の偏りから
思想・観念を読み取ることが可能。

二、『訓蒙図彙』と『三才図会』の比較から考える近世日本の知識世界

『訓蒙図彙』

『三才図会』

1666年

1607年

中村惕斎

王圻、王思義

誕生の背景

誕生の背景

後世への影響

後世への影響

後世の評価

後世の評価

後世への影響

『訓蒙図彙』

増補改訂版

「訓蒙図彙もの」

応用・模倣される

ケンペルの『日本誌』はそれを参照

その精神や形式が近代まで継承された

『三才図会』

中国では どう読まれ
庶民世界にどんな影響？

日本への影響

後世の評価

『訓蒙図彙』

白井光太郎

中村惕斎を「日本の本草家」と

南方熊楠

『三才図会』

「采摭浩博、亦有足資考核者。而務広貪多、冗雜特甚。其人物一門、繪画古來名人形像、某甲某乙、宛如目睹、殊非徵信之道。如拋倉頡四目之說、即画一面有四目之人、**尤近兒戲也。**」
『四庫全書總目提要』

「蒐羅頗為繁富、亦有裨于多識、而**門目瑣屑、排纂冗雜、**下至弈棋牙牌之類無所不收、即所系諸說亦皆**摭掇殘剩、未晰源流、**……**漫無考証、**其不及章本清『図書編』遠矣。」
(清) 周中孚『鄧堂讀書記』

「三才図会一百卷、皇明王圻之所作也……各為之図、並系說於其下。其包括既富、**務博而不務精、其訛舛固已多**矣。其図又輾轉摹写、愈失其真。然古之君子左図右書、**后世知書而不知図。**若此書者、亦近世之所罕有也。」
(朝鮮) 洪奭周『洪氏讀書録・子部・説家』(1810)

知識人と庶民世界の隔たり

本草学・博物学と近代科学

三、歴史研究における「図像」の意義

文字・文献史料を中心とする歴史研究

「図像」の特別な効能と価値

図像史学・形象史学

「凶像」の意義

「芸術性」がない凶像

「百聞は一見にしかず」

特定の製作者・読者・背景・動機・表現方法・風格・伝播過程
凶像の設計・構造・モチーフ・色彩の傾向
模写・翻刻の過程における選択・変形

そこに反映される思想・観念

『訓蒙図彙』

故意的に落とす部分や付け加えた部分
文字では伝えることのできない情報が豊富に存在

図像を第一資料に
文字資料の付属的な存在ではなく、
文字資料が記録していない史実・情報を提供

「図像」を読み解く方法の問題点

図像の鑑別

主観的な想像の空間 曲解

芸術史家のように図像を読み解く腕

学際研究

図像を探す

近世期絵入百科事典データベース

『中国絵画総合図録』

正篇(全5巻、1982・1983年)、続編(全4巻、1998～2001年)、三編(全6巻、2013～2020年)
東京大学出版会